
スロウ

桐野コウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スロウ

【Nコード】

N5536D

【作者名】

桐野コウ

【あらすじ】

ゆるいコンビニ店員のゆるい一日にチヨコまんというエッセンスを

「まったく、何でお前はいつもそうなんだ」

「はあ、すいません」

俺の一日は、先輩の大きなため息から始まった

先輩はかれこれ十分前からずっと怒っている

きつと俺が棚卸しの時間を間違えたからだ

あ、そういえばポテトチップス新発売のやつまだ食べてないや、よし帰りに買って帰ろう

社員割引を使えば確か三十パーセントくらい安くなるはずだし、取り置きしとけば売り切れることもない

それが、俺がコンビニでバイトを始めた理由

「ゝっておい、ちゃんと話聞いてんのか！」

「そついえば先輩、中国の孔子って身長二メートルもあつたらしいですよ」

「俺はお前のそういう脈絡のないところが嫌いだ」

呼び出したのは先輩のはずだったのに

「お前邪魔だからレジ番でもしてろ」と言われて、俺はレジの前に追いやられた

先輩はきつとこれから俺が間違えた棚卸しをやり直すんだと思う

朝のラッシュが過ぎたコンビニは、どこか雑然としていて妙に静かだ
お弁当コーナーだけがやけに空っぽで、今日もお弁当は完売したの
だと知る

みんなお弁当を作るのがそんなに嫌なのかそれともコンビニ弁当愛
好家がこの地区ではすごく多いのか、朝にお弁当が売り切れないこ
とはめったにない

俺もいつか食べてみようと思っっているけどいつも取り置きし忘れて、
お昼は梅昆布おにぎりで我慢している

ポテトチップスはそんなことがないように今のうちに取っておかな
いと

先輩がダンボールから何かを取り出す音がする

聞こえるのはそのガサガサという音だけ、あとは何も聞こえない

ふと、レジの横に置いてある中華まん用の保温器が目に入った

肉まんカレーまんあたりならまだ分かるけど、ピザまんとかチョコ
まんなんて物は一体何がしたいのか分からない

ピザはピザ、チョコはチョコで良いじゃないか

むしろ中華まんになってしまった今、それはピザやチョコの原型を
留めていない気がする

これを商品化した奴に中華まんの定義を問いたい、それはもう小一
時間ほど問いつめてやりたい

お前は中華まんを一体何だと思っているのかと、お前のせいで中華
まんの質が

「すみません、チョコまんください」

気づいたらレジの前に女の子が立っていた

女子高生だろうか、制服に青いマフラーを巻いている

「チョコまん一つですね、百五十円になります」

俺は保温器から茶色い形のチョコまんを一つ取り出して専用の袋に突っ込む

良かったなチョコまん、もし世界に客が俺しかいなかったらお前は確実に売れ残ってたぞ

「お兄さんさ、チョコまん好き？」

「はい？」

「だから、チョコまん好き？」

女子高生は俺が差し出した袋を受け取りながらそう言った

何で突然見ず知らずの高校生にそんなことを聞かれなきゃならんだ、何の権限があつてお前は俺に聞いているのだ

だけど俺は思い出した、今は接客中お客様は神様です

「いや、別に　あまり好きじゃないッス」

「やっぱりね、そういう顔してるもん」

女子高生はそれから

「おいしいのにー」と歌うようにそう言ってコンビニを出ていった
何だっただんだ今のは、チョコまんの妖精が俺に文句でも言いにく
たのか

女子高生が出ていってからお昼になるまで、客は本当にまばらにし

か来なかった

いつか潰れるぞ、このコンビニ

そうなると俺は無職になるんだけど、まあそれは明日明後日の話じゃないし今は気にすることもないから別に良いや

その代わりお昼はこれでもかというくらい混んでいた混んでいる時の先輩は機嫌が悪いし、何より人使いがそれはもうかなり荒い

「ぼーっとすんな、ちゃんと働け！」と五回以上言われても俺の動きは変わらなかった

だって俺の中ではこれが最高速度ギネス記録級なんだ

チヨコまんの妖精もとい女子高生は、その日の夕方またやって来た青いマフラーに付いていた雪が店内に入ってすぐ透明になる

「チヨコまんください」

「チヨコまん一つですね、百五十円になります」

一日にあの得体の知れないものを二つも食うのかこの女はこれは本気でチヨコまんの妖精かも分からね

「お兄さんさ、チヨコまん嫌いなんですよ？」

袋を手渡すと同時にまた同じ質問をされた

いや、今度は確認とでもいうべきか

「、はあ」

「どうせ食べたことないんでしょ？食べてみなよ」

女子高生はそう言っただけで俺がさっき包んだ袋を俺に突き返した

「は？」

自分が食べるために買ったんじゃないのか、それとも俺をただからかっているだけなのか

どちらか判断がつかないままチョコまんの入った袋を受け取ると、女子高生は

「おごつてあげる」と笑ってコンビニから出ていった

女子高生に奢られる俺、しかも中身はチョコまん

そのまま保温器に戻しても良かったんだけど、もう料金払っちゃったし何よりわざわざ奢ってもらったものだから袋から取り出して一口食べてみる

あ、意外とおいしい

「何バイト中に勝手に物食ってたんだ！」

ちょうど奥から出てきた先輩に頭を叩かれたけど、俺はチョコまんを食べるのを止めなかった

女子高生の姿はもう見えない、これからもきつとこのコンビニにはもう来ない、そんな気がする

今日も平和な一日だった

スロウ

（やさしく過ぎていく、）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5536d/>

スロウ

2010年12月14日17時46分発行